

平成26(2014)年度

事業計画書

学校法人阪南大学

平成26(2014)年度学校法人阪南大学事業計画

1. はじめに

平成25年度の主な事業の進捗状況についてご報告いたします。

私立大学の約4割が入学定員を充足できないという厳しい環境が続いておりますが、本学園におきましては、平成25年度も阪南大学、阪南大学高等学校ともに定員を上回る学生、生徒を受け入れることができました。

大学におきましては、創立50周年に向けた施策を計画的に実施してきました。まず施設・設備面では6号館の外壁改修が10月に完了し、エコキャンパス化の推進と同時にキャンパスの美観が一段と向上しました。日本一の超高層ビルあべのハルクスの23階に設置する「あべのハルクスキャンパス」は計画通り平成26(2014)年3月にオープンいたします。「50周年記念館」も6月竣工に向け工事は順調に進んでいます。

また、特別予算を組み実学教育やグローバル教育の一層の充実を図りました。学生たちは学習成果を積極的に外部のコンテストで発表し、関空発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画コンテストで準グランプリと優秀賞を獲得、「スチューデント・イノベーション・カレッジ2013」で総合2位とテーマ優勝を受賞、「第15回キャンパスベンチャーグランプリ大阪」で近畿経済産業局長賞を受賞、「第11回学生ビジネスプランコンテスト」で努力賞を受賞するなど輝かしい成果を上げました。

就職につきましては、読売新聞社やダイヤモンド社の調査による平成25(2013)年3月大学卒業者の就職率で本学学生の就職率は関西の有力大学に比し遜色のない水準となっております。本学は永年「実学教育」を重視し「就職に強い大学」を目指してまいりましたが、それを実績としてお示しすることができました。また平成26(2014)年3月卒業者の就職内定も前年度を上回るペースで推移しています。

一方では、志願者動向を見据えた入試制度改革や経済的環境を踏まえた給付型奨学金制度の充実、入学検定料の改定など、将来に向けた対策も進めました。その結果、平成26年度一般入試前期日程の志願者は前年度比大幅に増加いたしました。

高等学校におきましては、平成23年度に設置した「文理特進コース」が3年目を迎え、放課後学習の拡充や大手進学予備校と連携した進学支援など新しい取り組みを始めました。クラブ活動も一段と活発化しています。特に強化クラブの一つであるサッカー部はインターハイ予選で優勝し、念願の全国大会出場を果たしました。また、平成26年度入試においても入学定員を大きく上回る受験者数となっております。

平成26年度におきましては、翌年度の大学創立50周年に向けた事業を整齊と進めると同時に、50周年以降の学園を取り巻く厳しい環境を見据えた中期的な課題への取り組みも必要となっております。魅力ある学園をつくるための重点課題を明確にし、教職員がベクトルを合わせて課題解決にチャレンジしてまいります。

2. 事業計画

<法人>

(1) 学園の重点課題の明確化と対策推進

中長期的に学生、生徒が減少する厳しい環境を見据え、下記3点を平成26年度の重点課題とします。

① 魅力ある学園づくりに向けた新たな取り組み

阪南大学においては学部の改組や新学部設置等の検討・準備に入ります。法人と教学サイドとで緊密に意見交換を行い迅速に進めてまいります。

阪南大学高等学校においては進学実績向上が重点課題であり、新たな奨学金制度等を検討・実施します。

② 大学創立50周年記念施設を活用した学生教育・支援の拡充

「あべのハルカスキャンパス」を3月に新設、「50周年記念館」も6月に竣工し後期より供用を開始します。学生・生徒に対する教育や学習・就職支援機能さらに社会への情報発信や連携機能を強化し、学生・生徒の満足度向上を図っていきます。

③ 収支改善に向けた経費削減等の対策実施

平成26、27両年度で経費見直し・削減の集中対応を行います。

収入面ではプロジェクトチームで補助金収入の増強を図っていきます。

(2) 社会的責務を果たす経営体制の強化

法人の理事には学長、校長、学部長および外部の学識経験者が就任し、透明性の高い理事会となっています。日常業務の審議機関である常任理事会は原則毎週開催し、必要な施策を迅速に講じていきます。

また、本学園における内部統制の有効性を高めるために、監事と内部監査人は会計監査人と連携し会計と業務の監査機能の強化を図っています。情報公表につきましても学校教育法施行規則等に従い、ホームページや事業報告書などで積極的に開示しています。

今後も透明性の高い経営体制を維持しコンプライアンスの実現に努めます。

(3) 健全な財政基盤の堅持

将来にわたって安定的に教育・研究の充実を図っていくため、さらに災害等のリスクへの対応力を高めるためにも健全な財政基盤の確立は必須です。本学園は経営方針として「借りに依存しない健全経営」「将来に備えて現保有資産(現預金)を確保」を掲げ、健全な財政基盤を確立してきました。今後も学園発展のために必要な投資を行うと同時に健全な財政基盤を堅持してまいります。

<大学>

社会のニーズに的確に対応しうる新たな学部体制の構築準備と更なる教育内容の充実・学生支援体制の強化に向けた取組を行います。

(1) 学部改組、新学部設置の検討と準備（重点課題）

現在 1 研究科 5 学部 5 学科のもと、よりよい教育・研究実現のため環境を整備し、学生満足度の向上に向け様々な取組みを進めていますが、時代の変化に対応し、発展する社会の要請に応えるため、新たな学部の設置や既設学部の改組転換に向けて検討を進めています。

(2) 大学創立 50 周年記念新施設を活用した学生教育・支援の拡充（重点課題）

①「あべのハルカスキャンパス」開設

平成 26（2014）年 3 月、あべのハルカス 23 階に「あべのハルカスキャンパス」を開設しました。同キャンパスでは、あべのハルカスなどを中心に発展するあべのという立地を生かし、ゼミなどの授業での活用（社会人との交流等）、学生の就職活動支援（就職相談等）、産官学による連携事業（協定締結団体との連携事業等）、広報活動（オープンキャンパス、入試説明会等）、社会人教育（社会人対象セミナー等）などを実施します。



あべのハルカス



あべのハルカスキャンパス

②「50 周年記念館」竣工

平成 26（2014）年 6 月、本キャンパスに 50 周年記念館が竣工します。この記念館には、カフェラウンジ、スチューデント・コモンズ及び記念ホール等が設置され、学生の学習環境や福利厚生施設が格段に向上します。

特にスチューデント・コモンズは、複数の学生が集まり、インターネットや図書など様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めるアクティブ・ラーニングを提供する施設で、課題解決能力やプレゼンテーション能力の養成に貢献することが期待され

ます。このスチューデント・コモンズには、学習支援室やネイティブスタッフと気軽に英会話を楽しめる英会話ラウンジ「English Space」なども設置され、活気ある学習環境が整備されます。

また、コンビニも併設されるカフェラウンジ（300 席）は、落ち着いた雰囲気の家具が配置され、学生・教職員の憩いの場となります。

さらに、500 名収容の記念ホールが設置され、コンサートや講演会など、様々な催し物が開催されます。



50 周年記念館



スチューデント・コモンズ

(3) 実学教育の充実及びICT活用による教育・学習支援の推進

- ① 課外授業を支援するためのフィールドスタディを推進するとともに、企業や地域社会と連携して課題解決に取り組む課題解決型専門ゼミ「キャリアゼミ」を通して実学教育の充実を図ります。
- ② キャリア教育のカリキュラム体系を改善し、キャリアデザイン、キャリアアップ、インターンシップなどの正課教育科目と資格取得との有機的な関わりを推進します。
- ③ スマートフォン対応など学生が利用しやすい機能等を付加した e-ポートフォリオによって、教育・学習支援の充実を図ります。
- ④ 海外企業等との国際インターンシップに多くの学生が参加し、海外での企業社会を体験することで、社会人基礎力養成とグローバル教育を推進します。

(4) FD・SD活動等の充実及びリメディアル教育における教育改善

- ① 大学の機構改革を行い、教育支援課を新たに設置して大学教育センターの強化を図ります。大学教育センターは、「50 周年記念館」に設置されるスチューデント・コモンズを運営し、本学の教育力向上を目指します。
- ② FD・SD活動等を充実させるため、学生による授業評価をはじめ、FD講演会、SD研修会などを推進します。
- ③ 大学教育に必要となる国語力の強化を図るため、リメディアル教育科目「スタディスキルズ 1・2」を導入します。この科目では、学力レベルや目標に応じた教育成果を基に学部別・学力別クラスを設定し、国語力、論理的思考力、ヒューマンスキルなどの社会人基礎力を養成します。

(5) 学生支援体制の強化

- ①全学部において、新入生オリエンテーション事業を実施し、教育方針の周知をはじめ、大学に対する帰属意識、愛校心の涵養、学生間の交流を促進します。
- ②阪南大学 50 周年記念館にスチューデント・コモンズを開設します。この施設を活用して学生の正課教育、ピアサポートを支援しつつ能動的学習者の育成に努めます。
- ③学習支援室では、SPI試験対策、英語基礎力養成やTOEIC対策などを充実させ、学生の学習支援をさらに強化します。
- ④各学部において、学生カルテ(相談・指導記録)の作成や出席状況調査、初年次ゼミ等での指導などを実施し、学生生活のサポートを強化します。
- ⑤サッカー部、硬式野球部、トランポリン部、スピードスケート部、チアリーディング部を特別強化クラブとして強化を図ります。
- ⑥創作ダンス部(仮称)、マンガ部(旧イラストコミック部)、法学研究会といったクラブを新設し、文化芸術・学術系クラブ・サークル活動の活性化を図ります。
- ⑦クラブリーダーズキャンプ、クラブ主将会議、学生活動報告会の内容を刷新し、クラブ・サークル活動における各種の事故防止のための啓蒙活動を充実させます。
- ⑧良好な学園環境を維持するため、マナー教育(喫煙、社会生活)、薬物乱用防止、ハラスメントの防止を徹底します。

(6) キャリア支援体制の充実

- ①本学と優良企業との関係強化と学生に対するカウンセリングの充実を図ります。具体的には、年間 1,200 社の企業訪問と学生相談 6,000 件を実施し、職業紹介を中心とする就職相談、マッチング会を開催します。
- ②これまでの大人数での就職ガイダンスを改善し、学部担当ごとのスタッフによるゼミ別ガイダンスや学部独自のガイダンスなど、少人数制に移行します。また、キャリア科目(正課)とキャリアガイダンス(非正課)との内容の重複等を精査し、効果的なキャリア支援カリキュラムを整えます。更に、インターンシップ受講生を対象としたアドバンスコースを実施します。
- ③あべのハルカスキャンパスを活用し、学生のキャリア形成や就職活動支援に取り組みます。学生の就職活動時の利用の他、2・3 年生を対象に社会人基礎力を養成するキャリアガイダンスや企業・社会人と学生が交流できる機会を設定し、学生のやる気や自主性を育てます。
- ④平成 28(2016)年 3 月卒業予定者の就職活動開始時期が現行の 12 月から 3 月に後ろ倒しになることで、学生の就職活動に支障をきたさないよう情報収集と分析を行い、学生支援を実施します。特に、学生と企業が接触する期間が短縮されることで業界、企業研究が不足しないよう企業研究や学内企業説明会の場を増設します。

(7) 国際交流の推進

- ①留学先での国際インターンシッププログラムなど、多様な留学プログラムを用意し、留学派遣を一層推進します。

- ②英会話ラウンジで目的別、レベル別の様々なプログラムを実施し、学生の英語力アップに努めます。後期からは、50周年記念館の学生・コモンズに英会話ラウンジを移設し、学生が英会話を実践できる場の拡充を図ります。
- ③中国語、韓国語会話ラウンジを開設し、留学生との交流や、将来アジアを舞台に活躍する学生の育成に努めます。
- ④ベトナム、インドネシアなど、東南アジアの国々の大学との連携を進め、学生交流の実現を目指します。
- ⑤外国の協定先大学からの留学生と日本人留学生との交流を促進し、学内で異文化理解の機会を提供します。

(8) 入学者の確保・高大連携

- ①「認知度・イメージ」の向上を目指し、志願に結びつく広報を充実させます。
- ②志願動向を見据えた入試制度改革を推進するとともに、入学選抜方法の工夫、改善を進めます。
- ③阪南大学高等学校及び協定校で連携プログラムを実施し、高大連携を強化します。その他の高等学校との高大連携も推進します。

(9) 研究活動の活性化と研究成果の公開及び図書館機能の強化

- ①科学研究費補助金や奨学寄付金など外部研究資金の獲得を目指します。
- ②科学研究費補助金や本学研究所助成研究において得られた研究成果について、公開講座などを通じて、積極的に還元します。
- ③学習支援機関として、学習支援部局との連携を強化し、学習教育用資料の充実を中心とした蔵書構築を進め、図書館の利用増加を図ります。
- ④図書館システム、データベース、機関リポジトリ等を活用し、情報へのアクセシビリティを上げ、利用者の利便性を図るための環境整備を行います。

(10) 社会連携の強化

- ①大学の機構改革を行い、社会連携課を設置して本学における社会連携事業を強化します。
- ②連携協定を締結している松原市、河内長野市、千早赤阪村、藤井寺市、羽曳野市、富田林市との連携を更に深め、地域社会への貢献を通じて人材育成を推進します。
- ③連携協定を締結している大阪府中小企業家同友会、松原商工会議所、大阪科学技術センター、太平洋人材交流センター、兵庫県商工会連合会などの団体との連携を強化します。

(11) 父母との連携強化

教育懇談会（父母対象懇談会）を実施し、教育内容の説明、履修に関する相談を行い、父母との連携強化に努めます。

(12) 50周年記念事業の推進

あべのハルカスキャンパス開設や 50 周年記念館竣工に伴うイベントを開催するなど、大学創立 50 周年を祝う事業を展開します。

<高等学校>

文理特進コース・総合進学コースのもとで更なる教育環境の充実と進学実績・クラブ活動の向上に向けた取り組みを行います。

(1)進学実績向上への取り組み強化（重点課題）

平成23年度に設置しました文理特進コースは4年目を迎えます。国公立大学や難関私立大学現役合格を目指し、放課後学習を一層充実させるとともに、平成25年度よりスタートした大手進学予備校と連携した学習支援を拡充します。総合進学コースにおいても、幅広い選択肢から自分に合った道が選択できるよう進路学習プログラムの充実を図り、将来の目標に向けて更なる支援を行います。

また、生徒の向上心をサポートする新たな奨学金制度を検討すると同時に、関西有力大学の指定校推薦枠拡大に向けた取り組みも強化していきます。

(2)成績優秀者奨学金制度の拡充

平成23年度より導入した松原市内の中学校を対象にした成績優秀者に対する給付型奨学金制度を松原市以外の指定中学校に対しても拡大していきます。

(3)英語検定の資格取得支援

英語検定の対策として平成24年度より導入しているeラーニング「英検CAT」を有効活用し、英語検定の資格取得を支援します。英語検定の1週間前には自宅にパソコンが無い生徒たちでも英語検定の学習ができるようにLL教室を開放します。

(4)阪南大学との連携

「総合進学コース」の3年生における総合的な学習において、阪南大学教員による講義を継続して実施します。

海外研修等の事前学習として阪南大学のEnglish Spaceでネイティブ講師による研修を受けることで語学研修の効果を高めます。また、クラブ活動においても全国レベルのサッカー部をはじめオリンピック選手を輩出したトランポリン部等のクラブとの連携をさらに強化していきます。

(5)防災訓練の実施

東南海地震等の災害に備え、防災マニュアルの策定を行い、教職員・生徒が日頃より「いかなる時・場所・状態においても自分の生命は自分で守るとっさの判断力と行動力の育成」を図るため防災訓練を年2回行います。

(6)メール配信システムの充実

平成25年度より導入した保護者向けメール配信システムについて未登録者の登録を促進し、保護者への情報伝達の向上を図っていきます。

(7)施設・設備の充実

施設・設備の整備を継続的に実施し、学習環境の維持改善を図っていきます。
平成26年度においては、体育館床改修・柔道場の畳入れ替え等を行う計画です。

3. 学納金

学校法人阪南大学の設置する大学院、大学及び高等学校の平成27年度入学者に係る学納金は据え置きます。

4. 予算の概要

(1)平成 26 年度消費収支予算

【帰属収入】

法人全体で約70.7億円となり、平成 25 年度比約2.7億円減収となる見込みです。大学では、平成 25 年度に獲得した私立学校施設設備整備費補助金約 1.6 億円がなくなったことが主な要因です。但し、大学改革総合支援事業補助金等については、平成 25 年度並の獲得を見込んでいます。

高等学校では、生徒納付金の減収によるものです。平成 25 年度の卒業生数は、平成 26 年度の入学見込者数を上回っております。

【消費支出】

法人全体で約67.1億円となり、平成 25 年度比約1.1億円の支出増となる見込みです。部門別では、大学は経常経費と 50 周年特別予算を削減しましたが、人件費、記念館及びあべのハルカスキャンパス等に係る経費増で支出が前年比約0.7億円増加する見込みです。なお、大学創立 50 周年特別予算については、広告費を大幅に圧縮いたします。

<大学予算>

単位(億円)

	平成 25 年度	平成 26 年度	増減 (H26-H25)
経常経費	17.3	17.0	▲ 0.3
50 周年特別予算(注記)	1.0	0.5	▲ 0.5
内、実学教育の充実・学生支援の推進	0.5	0.4	▲ 0.1
内、社会的認知度の向上	0.5	0.1	▲ 0.4
小計	18.3	17.5	▲ 0.8
人件費	32.1	33.0	0.9
記念館・ハルカスキャンパス関連経費等	—	0.5	0.5
その他	1.9	2.0	0.1
合計	52.3	53.0	0.7

注記 平成 26 年度の 50 周年特別予算の主な内訳は以下のとおりです。

・実学教育の充実・学生支援の推進(0.4億円)

「フィールドスタディ」、「国際インターンシップ」、「留学・交流支援」、「e-ポートフォリオ」、「あべのハルカスキャンパス講座、イベント」など 19 件

・社会的認知度の向上(0.1億円)

新聞・交通広告

高等学校は、人件費増に加え、進学実績向上に向けた取り組みを最重要課題として予算措置を行いました結果、支出が平成 25 年度比約0.4億円増加する見込みです。

【基本金組入額】

法人全体で約5.6億円となり、主なものは50周年記念館と大学6号館空調設備更新費です。平成25年度は6号館外壁改修やあべのハルカスキャンパス新設など大型工事があったため前年度比では約4.5億円の減少となる見込みです。

【消費収支差額】

法人全体で約2.1億円の支出超過となり、平成25年度比0.7億円減少となる見込みです。部門別では、大学は約2.9億円の支出超過、高校は約0.8億円の収入超過となる見込みで、高校は黒字転換した平成23年度以降、収入超過を維持しています。

大学においては、収支改善のために、平成26年度から27年度にかけてコスト削減を図ると同時に補助金収入の増加にも取り組んでいきます。

単位(千円、%)

科 目	平成25年度 補正予算 (二次)	比率 (帰属収入比)	平成26年度 当初予算	比率 (帰属収入比)	増減
帰 属 収 入	7,337,211	100.0	7,068,102	100.0	△ 269,109
大学	5,709,580	100.0	5,534,180	100.0	△ 175,400
高校(中等部)	1,627,631	100.0	1,533,922	100.0	△ 93,709
消 費 支 出	6,608,628	90.1	6,714,976	95.0	106,348
大学	5,232,276	91.6	5,297,795	95.7	65,519
高校(中等部)	1,376,352	84.6	1,417,181	92.4	40,829
帰 属 収 支 差 額	728,583	9.9	353,126	5.0	△ 375,457
大学	477,304	8.4	236,385	4.3	△ 240,919
高校(中等部)	251,279	15.4	116,741	7.6	△ 134,538
基 本 金 組 入 額	△ 1,016,912	△ 13.9	△ 563,730	△ 8.0	453,182
大学	△ 974,912	△ 17.1	△ 530,000	△ 9.6	444,912
高校(中等部)	△ 42,000	△ 2.6	△ 33,730	△ 2.2	8,270
消 費 収 支 差 額	△ 288,329	△ 3.9	△ 210,604	△ 3.0	77,725
大学	△ 497,608	△ 8.7	△ 293,615	△ 5.3	203,993
高校(中等部)	209,279	12.9	83,011	5.4	△ 126,268

(2)平成26年度資金収支予算

【施設・設備関係支出】

平成 26 年度の支出は約10.8億円で、平成 25 年度予算とほぼ同じ水準で、高水準の支出を予定しています。(平成 21 年度～23 年度まで3年間の平均は約2.8億円)

但し、50 周年記念館に係る支出は平成 26 年度が最終となり、平成 27 年度以降の施設・設備関係支出は大幅に減少する見込みです。

施設・設備関係支出(約10.8億円)

①大学創立 50 周年記念館建設工事費・備品費	約9.2億円
②大学6号館空調設備更新工事費などインフラ整備	約0.9億円
③備品	約0.2億円
④図書	約0.5億円
合計	約10.8億円

【資産運用支出】

特定資産への繰入であり、平成 25 年度予算と同様15.5億円の繰入を予定しています。大学は、法人で定めたルールに基づいて、12.5億円の繰入れをおこないます。

但し、50 周年記念館建設に係る繰入は、5 年目である平成 26 年度が最終となります。高等学校は、収支改善に伴い積立不足を解消すべく、平成 25 年度同様3億円を繰り入れます。

特定資産への繰入支出(15.5億円)

①大学創立 50 周年記念館建設引当特定資産	4.0億円(内、高校 0億円)
②減価償却引当特定資産	7.0億円(内、高校 2億円)
③施設設備整備引当特定資産	3.0億円(内、高校 0億円)
④退職給与引当特定資産	1.5億円(内、高校 1億円)
合計	15.5億円(内、高校 3億円)

(3)資金収支予算書

資金収支予算書

収入の部

単位(千円)

科 目	平成25年度 補正予算	平成26年度 予算	増減(H26-H25)
学生生徒等納付金収入	5,963,290	5,767,840	△ 195,450
手数料収入	73,738	70,738	△ 3,000
寄付金収入	9,000	9,000	0
補助金収入	1,051,300	989,300	△ 62,000
資産運用収入	66,000	61,000	△ 5,000
雑収入	173,600	169,600	△ 4,000
前受金収入	989,500	989,500	0
その他の収入	1,273,725	1,303,554	29,829
資金収入調整勘定	△ 1,205,610	△ 1,153,500	52,110
前年度繰越支払資金	10,230,447	9,620,235	△ 610,212
収入の部合計	18,624,991	17,827,268	△ 797,723

支出の部

科 目	平成25年度 補正予算	平成26年度 予算	増減(H26-H25)
人件費支出	4,179,780	4,259,770	79,990
教育研究経費支出	1,353,002	1,401,135	48,133
管理経費支出	443,306	376,971	△ 66,335
施設・設備関係支出	1,106,138	1,083,218	△ 22,920
資産運用支出	1,550,000	1,550,000	0
その他の支出	690,298	534,555	△ 155,743
資金支出調整勘定	△ 317,768	△ 234,210	83,558
次年度繰越支払資金	9,620,235	8,855,829	△ 764,406
支出の部合計	18,624,991	17,827,268	△ 797,723

(4)消費収支予算書

消費収支予算書

消費収入の部

単位(千円)

科 目	平成25年度 補正予算	平成26年度 予算	増減(H26-H25)
学生生徒等納付金	5,963,290	5,767,840	△ 195,450
手数料	73,738	70,738	△ 3,000
寄付金	9,283	9,624	341
補助金	1,051,300	989,300	△ 62,000
資産運用収入	66,000	61,000	△ 5,000
雑収入	173,600	169,600	△ 4,000
帰属収入合計	7,337,211	7,068,102	△ 269,109
基本金組入額合計	△ 1,016,912	△ 563,730	453,182
消費収入の部合計	6,320,299	6,504,372	184,073

消費支出の部

科 目	平成25年度 補正予算	平成26年度 予算	増減(H26-H25)
人件費	4,160,320	4,276,870	116,550
教育研究経費	1,943,002	2,001,135	58,133
管理経費	505,306	436,971	△ 68,335
消費支出の部合計	6,608,628	6,714,976	106,348
消費収支差額	△ 288,329	△ 210,604	77,725
前年度繰越消費収入超過額	12,556,799	12,268,470	△ 288,329
翌年度繰越消費収入超過額	12,268,470	12,057,866	△ 210,604

帰属収支差額 (帰属収入－消費支出)	728,583	353,126	△ 375,457
-----------------------	---------	---------	-----------

(5) 5年間の推移

消費収支

(単位:千円)

消費収入の部	平成 22 年度 決算	平成 23 年度 決算	平成 24 年度 決算	平成 25 年度 補正後予算	平成 26 年度 予算
学生生徒等納付金	5,956,548	5,998,213	5,932,633	5,963,290	5,767,840
手数料	102,284	92,324	87,659	73,738	70,738
寄付金	15,449	17,292	16,186	9,283	9,624
補助金	636,152	705,087	852,142	1,051,300	989,300
資産運用収入	107,742	60,019	56,530	66,000	61,000
事業収入	0	800	3,141	0	0
雑収入	286,681	182,832	139,759	173,600	169,600
帰属収入合計	7,104,859	7,056,568	7,088,054	7,337,211	7,068,102
基本金組入額合計	△ 421,834	△ 509,446	△ 624,717	△ 1,016,912	△ 563,730
消費収入の部合計	6,683,024	6,547,122	6,463,337	6,320,299	6,504,372
消費支出の部	平成 22 年度 決算	平成 23 年度 決算	平成 24 年度 決算	平成 25 年度 補正後予算	平成 26 年度 予算
人件費	4,095,747	4,103,473	4,220,684	4,160,320	4,276,870
教育研究経費	1,727,208	1,899,726	1,912,910	1,943,002	2,001,135
管理経費	458,855	465,442	527,708	505,306	436,971
資産処分差額	19,594	24,993	19,214	0	0
徴収不能引当金繰入額	979	386	729	0	0
徴収不能額	9	720	44	0	0
消費支出の部合計	6,302,394	6,494,740	6,681,292	6,608,628	6,714,976
消費収支差額	380,629	52,381	△ 217,955	△ 288,329	△ 210,604

帰属収支差額(帰属収入 －消費支出)	802,465	561,828	406,762	728,583	353,126
帰属収支差額比率	11.3%	8.0%	5.7%	9.9%	5.0%

以上